

訪日外国人の広域周遊促進に向けた検討

～ 関空利用と滞在日数に着目して ～

野津直樹 株式会社ナビタイムジャパン 交通コンサルティング事業

小竹輝幸 株式会社ナビタイムジャパン 交通コンサルティング事業

西田明 国土交通省 近畿地方整備局

清水将之 一般財団法人 国土技術研究センター

キーワード：インバウンド、利用路線、滞在日数、広域周遊

【目的】本研究では、スマートフォンの訪日外国人旅行者（以下、訪日客）向けナビゲーションアプリにおいて取得した訪日客の移動実績データを活用し、関西地方を訪れる訪日客の関西空港（以下、関空）利用の有無と滞在日数、周遊範囲の関係や関空利用者の交通手段等について、従来のアンケート調査等とは異なり、初めて正確なデータに基づき広域、都市内の分析を行った。

【方法】（株）ナビタイムジャパンが提供する訪日客向け多言語観光案内アプリ「NAVITIME for Japan Travel」を用い、平成27年1月～平成27年12月の1年間に取得した関西地方（滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県）における訪日客の移動実績について分析を行った。

【結果と考察】関西地方における滞在者数は17,258ユニークユーザ（以下、UU）であり、日本全国（45,819UU）の37.7%が滞在している。国籍比率は（表1）に示す。府県別に見ると、大阪府（8,845UU）と京都府（8,423UU）に多くの訪日客が集中している。関西地方滞在者のうち関空利用者の割合は、関西地方滞在者（N=17,258）の22%（3,816UU）であった（関空が所在する1kmメッシュ内での位置情報の取得を以って関空利用と判定）。

① 関空利用者の交通手段、滞在先の分析

太田ら（2015）の研究において、訪日客の関西地方の滞在先として、北は城崎や天橋立、南は新宮といった広域での周遊実績が確認されており、京都や城崎、姫路、熊野古道周辺は欧米系の割合が高いことが示されている。本研究において、訪日客の関西地方の滞在先を関空利用非利用別に見ると、関空利用者の多くの滞在先は京都・奈良・姫路までの範囲に留まっている。国籍別に見ると、就航路線の関係からアジア系が圧倒的多数だが、高野山に限っては欧米系が多い。関空非利用者は、関空利用者の周遊範囲に加え、北は城崎・天橋立方面、南は熊野古道方面へ周遊範囲が拡大している。国籍別には、大阪周辺については関空利用者と同様アジア系の割合が高いが、京都や城崎、姫路、熊野古道周辺については欧米系の割合が高い。（表1）国籍比率

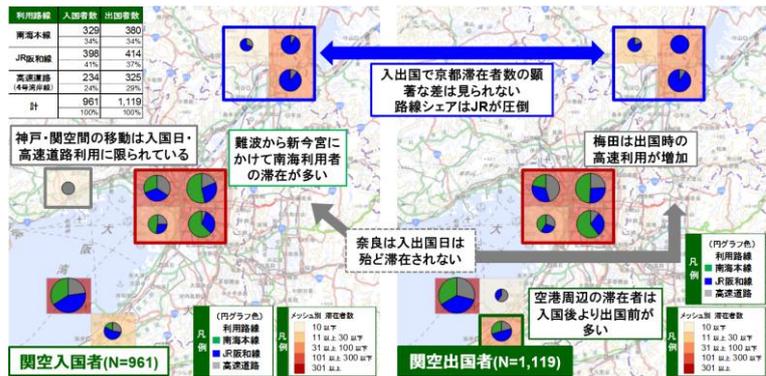
次に、関空利用者の交通手段について入出国別に分析を行った。具体的には、関空における入出国を判定できた訪日客のうち、取得した位置情報から入出国前後の利用路線を推定できた入国者（961UU）・出国者（1,119UU）について、利用路線のシェア分析を行った。南海本線の利用割合は入国と出国で同じ34%である。JR阪和線の利用割合では入国が41%と出国と比較して4ポイント高く、反対に高速道路の利用割合では出国が

順	国名	滞在者数	割合
1	米国	1,928	11%
2	タイ	1,901	11%
3	豪州	1,403	8%
4	台湾	1,134	7%
5	中国	1,061	6%
6	香港	1,050	6%
7	シンガポール	1,007	6%
8	マレーシア	987	6%
9	インドネシア	769	4%
10	フィリピン	753	4%
11	その他・不明	5,265	31%
	計	17,258	100%

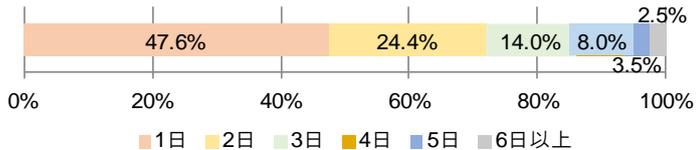
29%と入国と比較して5ポイント高くなっており、高速道路は出国時により利用されやすいことが分かった(図1)。また、海遊館周辺は出国前の滞在が見られる一方で、USJ 周辺や奈良県は入出国日当日には殆ど滞在されていない。

② 滞在日数と周遊範囲の分析

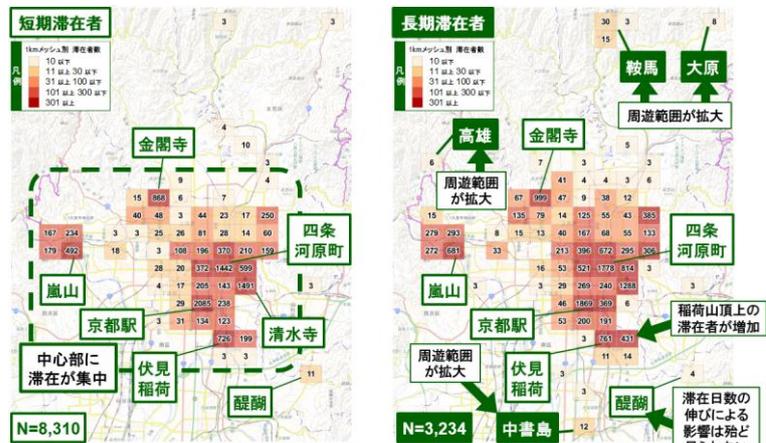
続いて、関西地方に滞在した訪日客(N=17,258)について、関西地方における連続滞在日数を算出した上で、連続滞在日数3日以内の12,358人を短期滞在者、同4日以上4,900人を長期滞在者と分類し、滞在先を比較した。関西地方を訪れる短期滞在者の大多数は、関西における周遊範囲が京都市以南かつ和歌山市・高野町以北に限られる。一方で、長期滞在者は周遊範囲が城崎・新宮まで広がり、高野山・姫路滞在者の割合が大幅に増加する。また、1人あたりの平均滞在メッシュ数が短期滞在者



(図1) 関空入出国者の利用路線別当日滞在先



(図2) 京都市滞在者の連続滞在日数(N=11,544)



(図3) 京都市短期(～2日)長期(3日～)別 滞在者の滞在先

1.57、長期滞在者が4.29と滞在日数の伸びにより、1人あたりの滞在メッシュ数が大幅に増加することから、個人の周遊範囲が広がると考えられる。同様に京都市内に滞在した訪日客(N=11,544)について、連続滞在日数を算出した上で、連続滞在日数2日以内の8,310人を短期滞在者、同3日以上3,234人を長期滞在者と分類し、滞在先を比較した(図3)。京都市短期滞在者の大多数は、京都市内における周遊範囲が金閣寺以南かつ伏見稲荷以北に限られ、京都駅・四條河原町といった交通結節点に特に多くの滞在が見られる一方で、長期滞在者は周遊範囲が鞍馬・大原・高野山・中書島まで広がる。また、1人あたりの平均滞在メッシュ数が短期滞在者1.39、長期滞在者が4.64と滞在日数の伸びにより、1人あたりの滞在メッシュ数が大幅に増加することから、個人の周遊範囲が広がると考えられる。一方で、関西地方広域の傾向と異なり、アジア系と比べ欧米系の方が限られたエリアに長期滞在する傾向が多く見られた。

【まとめ】本研究では、関西地方を訪れる訪日客の関空利用非利用と交通手段別に広域、都市内の分析を行い、滞在日数と周遊範囲の関係について明らかにした。今後の課題として、地方部における滞在者数の差と交通利便性の関係、都心部における回遊有無の要因分析、乗換結節点の機能状況、自治体と連携したデータ分析に留まらない課題解決などが挙げられる。

【参考文献】太田恒平、小野田哲也、野津直樹、清水将之、宇野正人:「ビッグデータを用いた訪日外国人の行動分析～発見! 意外なホットスポット～」、第12回観光情報学会全国大会(2015)